

平成
29
年度
決算

由良町財務書類

統一的な基準による財務書類
～一般会計等～

平成31年3月

和歌山県由良町

総務政策課

平成 29 年度決算の一般会計等財務書類

新しい地方公会計制度

これまで本町では「総務省方式改訂モデル（以後、改訂モデルと言います）」の財務書類を作成してきました。本町がこれまで積み上げてきた資産と、この先返済する必要がある負債、すでに支払いが終わっている純資産などの情報を表示した貸借対照表など、今までの決算書では把握できなかった情報を、新たな切り口から見ることができました。

この改訂モデルの作成方式に代わり、平成28年度決算からは「統一的な基準に基づく財務書類（以後統一モデル財務書類と言います）」の作成方式が導入されました。

統一モデル財務書類は、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間で準備期間とし、全ての地方公共団体において作成するように要請されています(平成27年1月23日付総務大臣通知「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」)。本町はこの要請に基づき、平成29年度決算での、統一モデル財務書類の4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成しましたので、その報告を行います。

これまでの財務書類との違い

平成27年度決算まで作成してきた改訂モデル財務書類と、今年度作成した統一モデル財務書類は、「発生主義」「複式簿記」という点で共通しています。大きく異なる点としては、資産の計上方法が挙げられます。

これまでの改訂モデル財務書類では、資産の整備に支出された金額（一般会計ではこれを普通建設事業費と呼びます）の分だけ資産があるものとみなして、普通建設事業費の積み上げを行って資産の残高として計算していました。

一方、これから作成する統一モデル財務書類は、対象となる決算の時点（今回は平成29年度決算のため、平成30年3月31日時点となります）で本町として実際に保有している資産について洗い出しを行い、評価して計上しています。そのため、これまでの改訂モデル財務書類と、資産額に差が出てきています。

財務書類とは

予算書や決算書などの今までの公会計とは別に、本町の財務状況をあらわす新たな取り組みとして、下記の4表を作成しました。これらをまとめて「財務書類」と呼びます。これは自治体の行政活動評価を行うための情報でもあります。

①貸借対照表（BS）

貸借対照表は、会計年度末に本町が保有している資産と、その資産を取得するために使ったお金の調達方法をあらわしています。現金の収支に注目するこれまでの決算書では表示することができなかった財産や負債等、これまでの資産形成の結果を知ることができます。

②行政コスト計算書（PL）

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）に関わらない経常的な支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。

③純資産変動計算書（NW）

貸借対照表の純資産の部について、増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税収や国・県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純経常行政コストや災害復旧等で臨時的に必要となった支出等が計上されます。

④資金収支計算書（CF）

貸借対照表の現金預金が1年間でどのように変化したのかをあらわしています。現金の使いみちによって「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」の3区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかを示しています。

貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表（バランスシート）は、平成 30年 3月 31日時点で本町が保有している資産と、その資産を取得するために使ったお金の調達方法をあらわしています。現金の収支に注目する従来の決算書では把握することができなかった、本町の財産や負債など、これまでの資産形成の結果を知ることができます。

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	17,242,110	固定負債	4,668,673
有形固定資産	16,461,517	地方債	4,067,570
事業用資産	5,182,151	長期未払金	0
インフラ資産	11,254,872	退職手当引当金	591,088
物品	24,494	損失補償等引当金	0
無形固定資産	32,243	その他	10,015
投資その他の資産	748,350	流動負債	1,188,078
流動資産	1,830,475	1年内償還予定地方債	393,130
現金預金	831,675	未払金	53,269
未収金	3,982	未払費用	0
短期貸付金	0	前受金	0
基金	995,553	前受収益	0
棚卸資産	0	賞与等引当金	35,358
その他	0	預り金	696,409
徴収不能引当金	△ 735	その他	9,912
		負債合計	5,856,751
		【純資産の部】	
		固定資産等形成分	18,237,663
		余剰分（不足分）	△ 5,021,829
		純資産合計	13,215,834
資産合計	19,072,585	負債及び純資産合計	19,072,585

◆有形固定資産・無形固定資産

道路や学校など、本町が保有する公共施設の総額

◆投資等

特定の目的で積立てた基金や出資金の総額

◆流動資産

現金預金や現金化しやすい未収金等の総額

◆負債

地方債の残高や退職手当引当金などの総額
将来世代が負担する金額

◆純資産

道路や学校等の整備の財源として受けた国や県からの補助金や地方税などの総額
これまでの世代が負担してきた金額

貸借対照表の主な分析指標

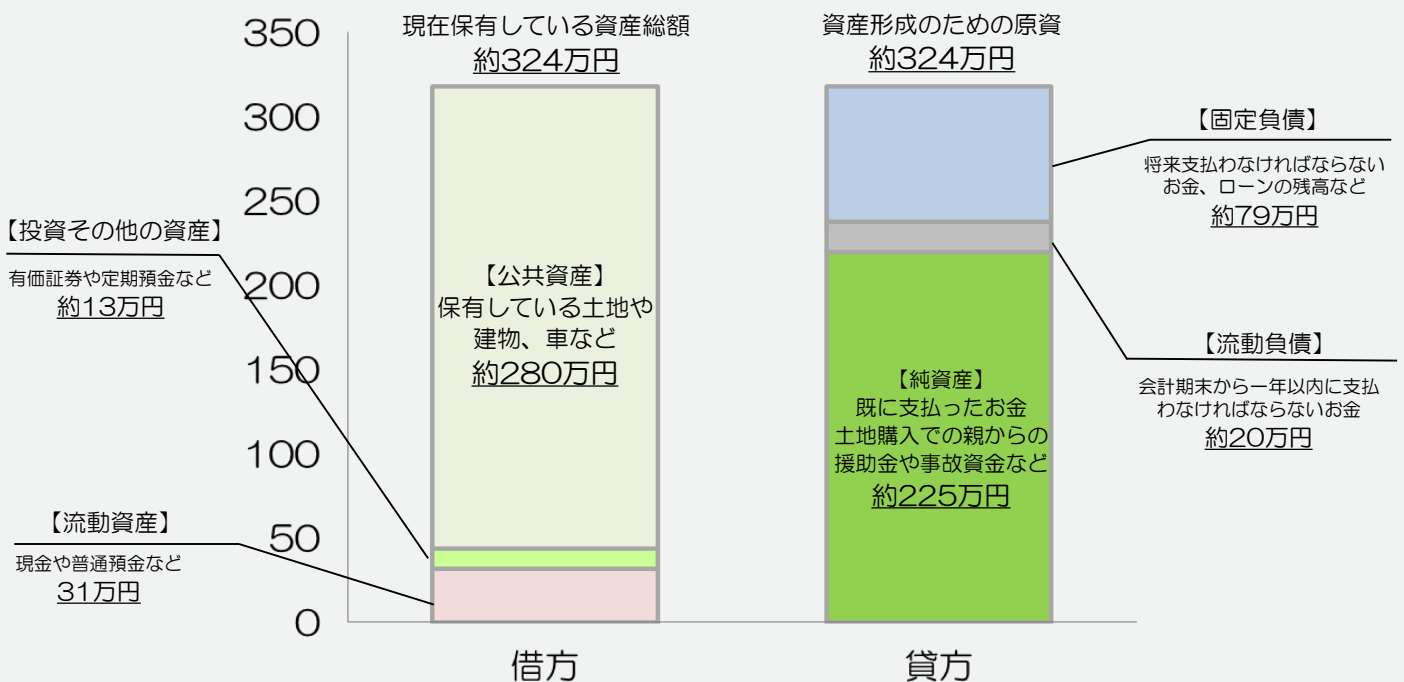
流動比率 154.1%

翌年度支払い予定の負債額に対して、すぐに支払いに充てることができる現金等がどのくらいあるのかを示す指標です。
（流動比率＝流動資産1,830,475千円÷流動負債1,188,078千円）

純資産比率 69.3%

現在保有している資産について、現世代でどのくらい既に支払ったかを示す指標です。
（純資産比率＝純資産合計13,215,834千円÷資産合計19,072,585千円）

貸借対照表を住民一人当たりの家計簿に置き換えると・・・



※人口は平成30年3月末時点（5,892人）を用いて算出

行政コスト計算書

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入）に関わらない支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。経常費用が経常収益を上回っていますが、これは行政コスト計算書上の収入に、行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	3,189,955
業務費用	1,760,851
人件費	571,129
物件費等	1,140,447
その他の業務費用	49,275
移転費用	1,429,104
補助金等	482,834
社会保障給付	353,926
他会計への繰出金	584,523
その他	7,821
経常収益	125,279
使用料及び手数料	41,168
その他	84,111
純経常行政コスト	3,064,676
臨時損失	109,708
臨時利益	0
純行政コスト	3,174,384

◆人にかかるコスト

職員給与のほかに、賞与引当金や退職手当引当金の繰入額が計上されています。

◆物にかかるコスト

物件費のほかに、施設の維持修繕費や減価償却費が計上されています。

◆その他のコスト

支払利息、貸付金、火災保険料等が計上されています。

◆移転支的コスト

移転費用には、社会保障給付や他会計への繰出金、補助金等が計上されています。

◆経常収益

行政サービスの直接対価である使用料や手数料、財産貸付収入、現金利息、雑入等が計上されています。



純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部の増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。

純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税金や国・県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純経常行政コストや災害復旧等で臨時的に必要な支出等が計上されています。

(単位：千円)

科目	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	13,302,744	18,429,878	△ 5,127,134
純行政コスト(△)	△ 3,174,384		△ 3,174,384
財源	3,058,723		3,058,723
税金等	2,533,169		2,533,169
国県等補助金	525,554		525,554
本年度差額	△ 115,661		△ 115,661
固定資産等の変動(内部変動)		△ 220,966	220,966
有形固定資産等の増加		363,608	△ 363,608
有形固定資産等の減少		△ 498,494	498,494
貸付金・基金等の増加		64,495	△ 64,495
貸付金・基金等の減少		△ 150,575	150,575
資産評価差額	1,976	1,976	
無償所管換等	26,775	26,775	
その他	0	0	0
本年度純資産変動額	△ 86,910	△ 192,215	105,305
本年度末純資産残高	13,215,834	18,237,663	△ 5,021,829

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加のほうが多かったことを示しています。逆に純資産が減少した場合は、行政コストが多かったり、資産の増加より負債の増加が多かったことを示しています。

資金収支計算書

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを示しています。現金の使いみちにより、3つの区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかが分かります。

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	2,691,010
業務収入	3,116,989
臨時支出	109,670
臨時収入	0
業務活動収支	316,309
【投資活動収支】	
投資活動支出	511,484
投資活動収入	198,314
投資活動収支	△ 313,170
【財務活動収支】	
財務活動支出	363,925
財務活動収入	357,400
財務活動収支	△ 6,525
本年度資金収支額	△ 3,386
前年度末資金残高	138,652
本年度末資金残高	135,266
前年度末歳計外現金残高	668,794
本年度歳計外現金増減額	27,615
本年度末歳計外現金残高	696,409
本年度末現金預金残高	831,675

◆業務活動収支

行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入・支出される金額が集計されています。

◆投資活動収支

学校、道路等の公共施設の投資活動収支や、貸付金などの収入・支出の金額が集計されています。

◆財務活動収支

地方債等の借入・償還等の金額が集計されています。